

一隅を照らす山と野と渚の教育

～心に灯をともし、郷土に誇りをもち、夢を育む大隅の教育～

「えい えい おーすみ」の掛け声で取り組む「魅力ある学校づくり」

大隅教育事務所長 原田 浩毅

「かのやカンパチロウ」「たるたる」「そお星人」「志武士ししまる」「松原王子」「ルピノン」「でんしろ」「みさきちゃん」「いて丸」と大隅地区では、魅力的な多くのキャラクターが、地域の情報発信、観光振興に取り組んでいます。また、各学校でも学校のキャッチフレーズを作成したり、学校公式キャラクターを作ったりしながら、地域や学校の特色を生かした教育活動に取り組んでいます。これらのキャラクターからは、そのデザインや性格で「親しみやすさ」が感じられ、その親しみやすさによって、発信する情報の「認知度」が向上するといわれています。

大隅教育事務所には、今年度右のキャラクター「えい えい おーすみ」が誕生しました。誕生の経緯や、デザインに込められた願いを広く県民の皆様へ認知していただけますよう、情報発信への御協力をお願いします。



「えい えい おーすみ」誕生の経緯と込めた願い

令和7年8月に県内子ども会のジュニア・リーダーや高校生クラブ、ボランティアグループ等で活動する中・高校生が、親睦を深めながら互いの資質を高め合う「交流大会」が、国立大隅青少年自然の家「おおすみくん家」で中高生68人、指導者・引率者64人の参加で開催されました。その実行委員会を担ってくださった大隅地区の中高生の皆さんが「大隅地区をもっともっと元気にしたい。応援したい。」という気持ちで、かけていたのが「えい えい おーすみ」の掛け声です。実行委員会は解散しましたが、この温かい気持ちを引継ぎ、地区教育行政基本理念「一隅を照らす山と野と渚の教育～心に灯をともし、郷土に誇りをもち、夢を育む大隅の教育～」をキャラクター化しました。このキャラクターには、「一隅を照らす輝く星、大隅の山と野と渚の豊かな自然、心に燃える灯と誇り、夢を育み応援する、『えい えい おーすみ』」の願いを込めました。



この「えい えい おーすみ」の掛け声で、地区全体で推進しているのが、「魅力ある学校づくり」です。これは、令和7・8年度に全教職員にお配りしたリーフレットと今号の特集記事にありますように、①意識調査を行い、②強肯定に着目し教育活動を振り返り全教職員で検討、③具体策を全教職員で実践し、④再度意識調査を行うという①②③④のPDCAを繰り返しながら、学校の魅力を児童生徒と教職員が一体となって創出していく発達支持的生徒指導を踏まえた居場所づくりと絆づくりの取組です。この取組は、学習指導要領で求められている「カリキュラムマネジメントの充実」に示された「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」の一つの柱を担っていると考えます。

令和7年度、本地区の新規不登校児童生徒の割合は、下表にあるように前年度に比べて減少しました。コロナ禍以降、不登校児童生徒の割合が、増加傾向にあったことに対し、各学校の取組が一定の成果を上げつつあると捉えています。また、県究協力校として錦江中が、地区研究協力校として東串良町教育委員会・池之原小・柏原小・東串良中が、「魅力ある学校づくり」の研究に取り組んでいます。

今こそ、「大隅は一つ」となって子供・保護者・地域・教職員等の笑顔あふれる「魅力ある学校づくり」を実現させましょう。

大隅地区新規不登校児童生徒割合

	R6	R7
小	0.64%	0.62%
中	1.75%	1.53%

大隅地区不登校児童生徒割合

	R6	R7
小	1.27%	1.53%
中	5.94%	5.61%

「明日も行きたい」と思える「魅力ある学校づくり」の推進

共通実践事項を「生徒指導の四つの視点」で見直す

「魅力ある学校づくり」を進めるに当たって、各学校では、児童生徒の実態を基に共通実践事項や具体的な取組を定め、全職員で実践していることと思います。

大切なのは、取組を決めることにとどまらず、「この取組を通して、児童生徒にどのような力を育み、児童生徒のどのような姿を目指すのか」を明確にし、よりよい具体策へと練り直していくことです。その際に有効となるのが、**生徒指導の実践上の四つの視点**(生徒指導提要 1.1.2 参照)です。

共通実践事項を決めた後や見直す際には、「①自己存在感の感受：一人一人が、自分は大切にされていると感じられる取組になっているか」「②共感的な人間関係の育成：互いの考えや違いを認め合う関係づくりにつながっているか」「③自己決定の場の提供：自分で考え、選び、決める場があるか」「④安心・安全な風土の醸成：安心して意見や困り感を表せる雰囲気がつくられているか」の、四つの視点から問い直してみましょう。これらで捉え直すことで、現在の取組に不足している視点や、さらに充実させるための工夫が見えてきます。また、一つの取組には複数の視点に関わることも気付くことができます。

例えば、話し合い活動を共通実践事項としている場合、単に「話し合う場を設ける」だけでは十分とは言えません。一人一人の考えやつぶやきを取り上げて価値付けることは、①自己存在感の感受につながります。相手の意見を受け止め、少数意見にも耳を傾けるルールをつくることは、②共感的な人間関係の育成につながります。役割や考えの伝え方を自分で選ぶ場を設けることは、③自己決定の場の提供となります。そして、間違いや意見の違いを素直に受け入れ、安心して発言できる雰囲気をつくることは、④安全・安心な風土の醸成につながります。このように、生徒指導の四つの視点から見直すことで、取組のねらいや具体策がより明確になります。学年や教科、担当が異なっても、全職員が共通の目的の下で実践を積み重ねることができ、学習指導と生徒指導の一体化も一層図られます。魅力ある学校づくりは、特別な取組を新たに増やすことだけを意味するものではありません。今行っている授業、学級経営、行事、児童生徒会活動等を、**生徒指導の四つの視点**から捉え直し、改善を重ねていくことが、全ての児童生徒にとって「明日も行きたい」と思える**魅力ある学校づくり**につながります。



「魅力ある学校づくり」を活用した授業改善の推進

「魅力ある学校づくり」の四項目の意識調査の中でも、「授業に主体的に取り組んでいる」「授業がよくわかる」の二つの項目は、授業改善の成果や課題を把握する上で欠かせない視点となります。強肯定と回答した児童生徒の割合に着目し、子供の声に基づいて授業づくりを行うことは、児童生徒が安心して学び、自ら学びに向かう授業の実現につながるはずです。また、授業改善の取組を「TALK」シートなどを活用して同僚や管理職と共有し、児童生徒の学びの姿について語り合いながら**授業改善の方向性を具体化**していくことで、更なる組織的な取組が期待されます。

意識調査を効果的に活用し、右図のように**年間を通した授業改善サイクル**を確立することで、「主体的に学ぶ」「授業がよく分かる」と実感できる児童生徒を増やし、魅力ある学校づくりと確かな学力の育成を一体的に推進していきましょう。



令和8年度重点課題における目標を達成させるために

確かな学力の育成

【令和8年度地区目標】

(鹿児島学力・学習状況調査において)

- 非認知能力に関する質問項目で「県平均」

重点項目

- 「あなたは、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」
- 「学校の授業がよくわかりますか。」

- 経年変化による学力調査結果の向上

令和8年度の大隅地区では、上記二つの目標を掲げています。確かな学力を児童生徒一人一人に確実に育成するためには、「学習者主体の授業」づくりが欠かせません。その実現には、個別・協働・一斉の学びを効果的に組み合わせ、単元全体を見通して学びを構想することが重要です。児童生徒が進んで学習に取り組み、「分かった」「できた」を実感できる授業の実現に向け、児童生徒の学びの視点に立った授業改善を推進していきましょう。

健やかな体の育成

【令和8年度地区目標】

- 県体力・運動能力調査結果

◎ 県平均以上（小：全種目 中：4種目以上）

- 歯肉に炎症所見を有する者の割合

◎ R10までに20%以下

令和8年度の大隅地区では、健やかな体の育成を目指すために上記二つの目標を掲げています。体力の向上を図るためにはまず「運動が好き」と答えられる児童生徒を育成する必要があります。学校体育や家庭・地域との連携の中で各学校の実態に合ったプランをPDCAサイクルで実践していきましょう。また、歯科指導ではむし歯と同様に歯肉炎予防にも努め、健康な体づくりをより一層進めていきましょう。



豊かな心の育成

【令和8年度地区目標】

- 4項目の意識調査を基にした「魅力ある学校づくり」推進100%

- 新規不登校児童生徒在籍率：前年度より減少

SNS上の投稿による二次被害を防ぐために

スマートフォンやSNSの利用が広がる中、動画や画像の投稿・拡散、誹謗中傷等によって児童生徒が深く傷つく事案が起きています。面白半分の撮影や友達同士での送信であっても、ひとたび拡散されると、被害が長期化し、取り返しのつかない二次被害につながるおそれがあります。こうした被害を防ぐために大切なのは気になる投稿を見たとき、送らない、保存しない、コメントしない、特定や憶測を広げない、そして信頼できる大人に相談することです。



家庭・地域の教育力向上

【令和8年度地区目標】

- メディア利用に関する家庭内ルール設定率100%

- 地域行事への参加率50%以上

その体験、子供たちの学びにつながっていますか？

「楽しかった」「貴重な体験だった」で終わっていませんか。子供たちは、体験しただけで自然に学びを深めるわけではありません。体験したことを振り返り、「なぜそうなったのか」

「何に気付いたのか」と考えることで、初めて学びとして残っていきます。



【ポイント】

- ① 振り返りで意味付ける
- ② 試行錯誤の過程を認める
- ③ 地域との関わりを学びにつなげる

新しい活動を増やすだけでなく、今ある体験に振り返りや対話の時間を少し加えることで、子供たちの学びは更に深まります。日々の体験を、子供たちの確かな経験へつなげていきましょう。



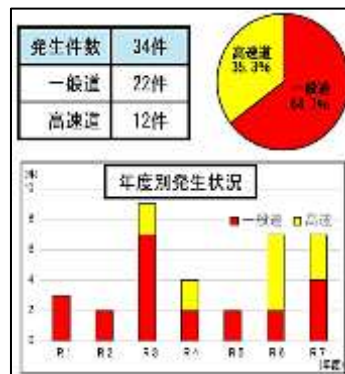
その速度、意識できていますか？ ～速度違反は特別な人に起こるものではありません～

7年間で34件。地区内で過去7年間に発生した速度違反事案を分析したところ、その多くは考え事や焦り、慣れによって速度への意識が薄れた中で発生していました。速度違反は特別な人に起こるものではありません。私たち一人一人に起こり得るものです。

速度違反は一瞬の判断ミスで発生します。そしてその一瞬の判断が、長年積み重ねてきた県民からの信頼を損なうことにもつながります。

34件を過去の数字で終わらせないために、今一度、自身の運転を振り返ってみましょう。

速度は体感ではなく、常に道路標識とスピードメーターで確認しましょう。



日々の実践を未来の授業へつなぐ ～教育活動実践記録の充実に向けて～

教育活動実践記録は、日々の教育実践を振り返り、その成果や課題を明らかにするとともに、次の取組へつなげていくための大切な機会です。

◇ 実践を振り返ることで、次の一手が見える

授業や児童生徒との関わりを振り返ることで、自分の実践のよさや改善点に気付き、「次はどのような工夫をしてみようか」という新たな視点が生まれます。それは、日々の授業づくりや教育活動の充実につながります。

◇ 共有することで、学校全体の学びへ

実践を学校全体で共有することで、新たな気付きや学びを得ることができます。一人一人の実践の積み重ねが、学校全体の教育力の向上にもつながっていきます。大切なのは、記録の作成ではなく、自らの実践を振り返り、よりよい教育活動へ生かしていくことです。

そこで、令和8年度は、教職員の皆様が無理なく取り組むことができる

○ 提出スケジュールの見直し

○ 実行計画の導入

○ 初任1年目の教職員への配慮

【提出期限】別紙様式1（出品者目録） 令和8年9月25日（金）

教育活動実践記録の提出 令和8年10月15日（木）

※ 詳細については、募集要項を御参照ください。

※ 実践をより深く整理し、発信したい方は、教育論文にもぜひ挑戦してください。

教育活動実践記録が、「取り組んでよかった」「次の実践に生かすことができた」と実感できる取組となることを願っています。



地区中学校道徳教育研修会

6月5日（金）、肝付町立高山中学校において、地区中学校道徳教育研修会が開催されました。管内中学校から約50名の先生方の参加がありました。2年生が「思いやり、感謝」、3年生が「社会参画、公共の精神」について研究授業を行い、生徒は、道徳的価値について、自分自身との関わりや過去の経験を基に、自分なりの問いをもち、積極的に考えを表現しながら、よりよい生き方について考えを深めていました。また、道徳授業の進め方として、各学年部の担任・副担任全員がローテーションで授業を実施する取組の紹介がありました。

	2年1組	2年2組	2年3組
1週目	A教諭	B教諭	C教諭
2週目	C教諭	A教諭	B教諭
3週目	B教諭	C教諭	A教諭

人権教育授業実践研修会

6月16日（火）、曾於市立財部小学校において、令和8年度大隅地区人権教育授業実践研修会を開催しました。

午前中は、人権教育の指導方法や大隅地区における人権教育推進上の課題について研修を行うとともに、「子どもの権利条約」を題材とした参加型学習を実施したり、各学校の現状や取組、課題を共有し、人権同和教育担当者として取り組めることについて協議したりしました。

午後は、部落問題学習の授業参観及び研究協議を通して、児童生徒の人権感覚を育む授業づくりや指導方法について、協議を通して、具体的に学びました。



水難事故防止について

今年度も「水難事故防止運動強調期間」が始まりました。

準備期間：7月1日（水）～7月20日（月）

実施期間：7月21日（火）～8月31日（月）

各学校で作成した推進計画に沿って事故防止へ取り組み、水難事故防止の徹底を図りましょう。

◎ 危険箇所の点検、危険表示等の確認

◎ 遊泳可能・禁止場所の学校・家庭・地域での情報共有

◎ 学校体育等におけるプール事故の防止（施設点検、指導内容の確認、緊急時対応等） など

学校、家庭、地域そして教育委員会、教育事務所が一丸となり、「水難事故ゼロ」を目指しましょう。9月1日（火）には、全員が元気な姿で会えますよう、御協力をよろしくお願いします。

